

27. 湿地性カラーの開花適性

福島県農業試験場会津支場・平成9～11年度春夏作試験成績概要

1 部門名 花き—カラー—品種 05—06—01040000

2 担当者 江川孝二・小林祐一・浅沼顕

3 要 旨

四季咲き性を有する湿地性カラーの開花適性を把握するために平成9年から3年間、会津支場内に据え置き栽培して検討した。供試品種は‘シルクロード’と‘ドリーミィピンク’の2品種である。

(1) 1年生株の生育は、‘シルクロード’の方が良かったが、収穫本数は株当たり0.6本であった。‘ドリーミィピンク’は、軟腐病等による株傷みがひどく、生育も停滞気味であった。

(2) 据え置き2年生の生育は、‘シルクロード’、‘ドリーミィピンク’共に1年目より旺盛となり切り花形質も向上した。しかし収穫本数は増加しなかった。

(3) 据え置き3年生の生育は、2年目よりも旺盛となり収穫本数や切り花長が向上した。しかし7月以後は収穫本数が激減した。

(4) 以上のことから、湿地性の四季咲き性カラーは、定植1、2年間は開花茎数も少なく、株養成期間と考えた方が良く、定植3年目から生育は旺盛になり収穫本数も増加する。また会津平坦地域では7月以後、急激に収穫本数が減少することから、四季咲き性の特徴を発揮させるためには、夏冷涼な山間高冷地域が適すると考えられた。